

アイヌ民族が日本語で著した文学作品(小説・評論・エッセイ・自伝・詩・短歌・俳句など)を網羅した植民地文学の通史——その下巻〈現代編〉がついに完成。新聞への投書から浩瀚な歴史書まで幾百の著述を渉猟した在野研究者が、上巻〈近代編〉とあわせて1000頁を超える大著で日本の文壇に一石を投じる。

# 近現代 アイヌ文学史論

2025年7月下旬刊

## 近現代 アイヌ文学史論

アイヌ民族による日本語文学の軌跡

〈現代編〉

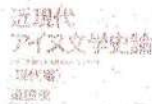
須田茂

Suda Shigeru

北海道新聞

2026年 令和8年 1月6日 火曜日

## アイヌ文学史 戦後から令和を網羅



寿郎社 3190円

「アイヌ新聞」創刊者の高橋真ら50人超紹介。活動中の世代も含め50人以上の著者、社会情勢も踏まえ、作品が生まれた背景やトレンドを論じた。

在野のアイヌ文学研究者、須田茂さん(67)川崎市在住。明治期から昭和前期までを扱った2018年の「近代編」の続編で、アイヌ民族が日本語で書いた小説、評論、エッセイや雑誌、同人誌などを令和までの文学史をまとめ、同社は「口承文芸や日本文学の枠では論じられてこなかったアイヌ文学がある。これはど広く網羅した類書はなく、修正した。」

研究者・須田さん 続編の「現代編」

寿郎社

道内書店各位

1/6 (火) 北海道新聞に、『近現代アイヌ文学史論〈現代編〉』の著者インタビューが掲載されました!

## 高橋真ら50人超紹介 時代の精神読み解く

「文学には時代の精神が反映される。アイヌ文学の対になるものは何かと見据えること、軸がぶれないことを意識した。」  
金融系の民間企業に勤める傍ら、執筆を続け、12年かけて2冊を完結させた。創作活動は2004年、知里幸恵「アイヌ神話集」に感動を覚え、川崎の文芸同人誌にエッセイを寄稿したのが始まり。「他にも書いている人はいるのか」と調べるうちに邊見北斗や鳩沢佐美夫らの活躍を知り、さらに興味を膨らんだ。鳩沢を特集した「コナン」第25号の購入をきっかけに、同誌で05年〜12年に上西晴治論や鳩沢論などを投稿したところ、反響が大きくなり、13年からは連載を始めた。調査や資料整理は膨大な作業だったが、「事実がどうかを確認してつなぎ合わせるのは発見の連続で、楽しくてやりがいがある仕事だった」と振り返る。昨年9月末、44年間勤めた会社を退職した。今後もアイヌ民族をテーマに、執筆に専念する考えだ。本書について「アイヌ文学がより活発になる手がかかりとなればうれし」と話す。(大沢祥子)

Tel: 011-708-8565

Fax: 011-708-8566

Email: info@jurousha.com

流通センター  
取扱品

書店名(番線)

御担当者名

発行所  
寿郎社

注文数  
冊

注文数  
冊

編著者名  
須田茂 著

[新刊]  
近現代アイヌ文学史論

[既刊]  
近現代アイヌ文学史論

本体価格(税抜)  
各編 2900円

発注日  
月 日

アイヌ民族による日本語文学の軌跡 〈現代編〉  
ISBN978-4-902281-68-5

アイヌ民族による日本語文学の軌跡 〈近代編〉  
ISBN978-4-909281-02-9